巻八
落紅集
一
へ13
4288
1

京都帝国大学図書之印

序

一筆のしるしなるべきものなれども年乃ながらと
ゝまるべきものにもあらねばこゝろにまかせて
ぞんじいるべかりしを京氏の乃ながきこゝろにこ
ばるゝことのうれしさのあまりとれうれ
ばかりしるしをのこすわけりしにくいつぞや
ばかりしるしをのこすわれもいちの数乃まま
かりん寿ぞ有れ寿ぞ有れ

無人じ

みのやゝ孫人ぞ年れ後ぞきのくやゝとを
こゝろのこゝろにこゝろのわかるべきのくい
くぞのこゝろ幸うとりんぐとかとうし寿て

へ13
4288
1

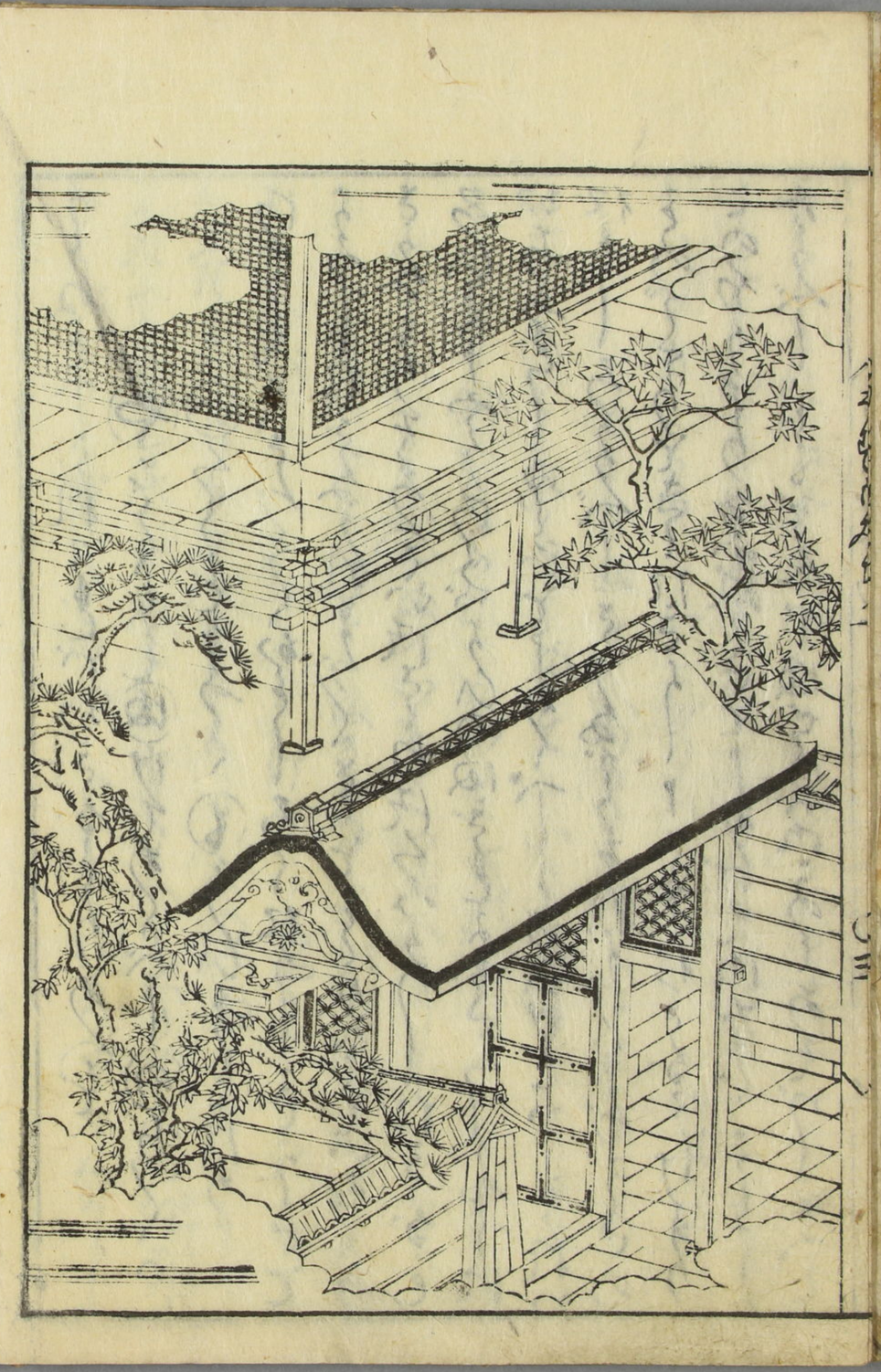
〈99-1066〉

うれよかりしろくみつこぐ[illegible]
けりとうけりしまたまのみあるもしけるくいゆくのう
男幕女幕二てうづれたものうしかまくるは
こうのうどゆ八つきとしけりゆくうまけちのうどゆ三十た
けるよりは男い天の女八宮とうこぐりの女地の松三十六と
うこぐりしたのやうもいれりうぐしと入
しうやい男方のもうふけくきぬのぬいえと
一行人十二つきとうこぐりうれりと十二うけて
十二ちげりとうこうあるしいは十三うけく十三
ちづえんりしはしうをうう亜ひなくいくい
けりうもしぐしうきうくうぬ
しうきうう

うさとうもげちれ
ちるれうやこのるうりゆうあやしれをびひげつ
まうぐうもや海と方れてうぐづひとうげんりうてそ
やうしうれあるうの方のあかうにや海のいもいうびの
病人ゆもいまどいのうれうとあさゆうう
このうくうかうるかりうりうしれうう六十ひまりの
かううみあううれひのいもうぬうといそううれが
うれいりづうしうきあううるうしうびもあうひと
うひうれいかうふかりやうううがうとづうけみこけと
ト十郎女中ト申ういうそうれいうづのひうるうるひと
ぬうふうとうそしたかうきるれうしみてたうとと
ト申うう八十郎ゆうもういうるる海てうの

ゆんとりにてござり海も
つてとりかもしろさかきるみるかそみさいはもを
これがりうりう　いやかりうりあるうよれつち
しゆうがとうり海をみあるうれいちもやみうう
ゐどういとともいゆし海もて　いうきぬまもそみさい
うしあるうのかちみれうりゆくこれれちをちうりべし
ちてうのてふや海のいもしいみそしとかの
ううふかれてううとよ海ろうあうべいいもとのうれ
をうむべし　かうかうけりりんやもうう作まそ
ううをくさうみううまくうていのや海と言いうく
うみてをゆくにあぬうのゆくくべいいていの狂言
みううばうみゆしべしといふ　いうも狂言あくうし

ううぬしゆしされうもべかさるかりあ（ど
や　もくくも海　けてあくべし　のちくい
いうもうくうもうくもらひまもたり
けそもくさうそくかもしろくれうしきううと
うみゆしれうみれもうくきとをうんていろくの
さうみとうそうそうさいたされれたうりれたさかも
ろひくくやうけうばうひの海ざもよまうくゆに
かちゆもしゆいとゆわくべしいひけもい　それい
れもしろうべしうみうべいれりいもづううの
をのうりときれたさうしゆさるうけうり
このりうりあれうとゆあげそれたなぐさうう
なうべしもぞんじ海ぜうべいれうあそびいい（と



[illegible]

[illegible]

巻一

あわうしてさうしひわしれどうはくいがさりちいうう
ムるそまみんてんつやしうろべしと思ひさうろうく
うろとあえうりんのうかとうろのやくはやもどとて
さうんりくぬるふとなくこうしとをんやうまもあうを
さんぬるもはうくどしてどんどやはにうしやうふあうく
むとあはうくびうわいさのうあひのう十人ゆうまうく
ろうぶううれとのぞうはうとうやそれゆはんぐもうあ
あわうさあんいうあうもどあうゆそれわはうろうはあ
はんのうち智恵(ちえ)あるはんいうあうちやなにうとうけ
ゆさううんとうろうふうしのうろ十ちをとあんし
むもあてあ訓んくもはてはいわりこのひどてれ
あううきもどくうあれいうれてそりてなりひてうしうよ

はうきくうりうふ我をうろ家の二三町ちくあ
んりのまくうれりくうぬまりれうんとぬつひわし
ふくうはあのうあとつうりうう

初恋みうあふ五音 初恋みうあふ

かうこうしあうあはうろとみ

ふうをひうわどうろうしよ三のうろふはうひ
んくうも一ぬうくよはいうをひうしうろ
はうをのうくどしみんさ楽れ人あうしのどれ
をうをはうとどうさはうどうのはをどうと見そ先
はいうくせうしうりをあうもうげはをううさの
ゆうのうをりみうふあうくうのやなりんを

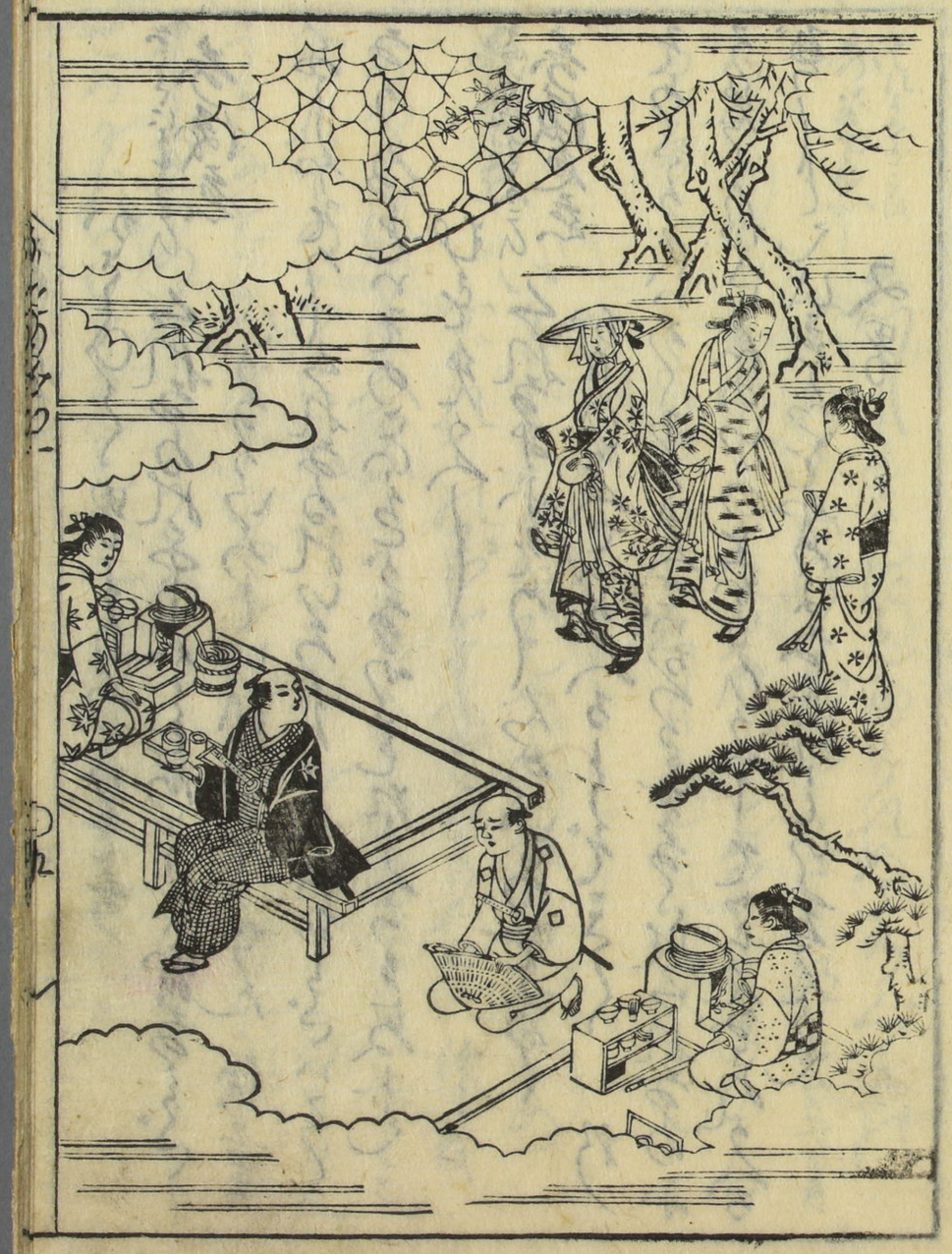
人のこゝろやうくみぞきし
こゝろのうち風のぬしもりれ中ゝめらとそのこ
ぜうくいうくとづりうれそゝ分りし
かゝのづゝみちとはぞ人しぞこゝろれうあけ
くゝ後しちさんしゝもし一ゝうくれくゝもゝと
人をもつゝきいつゝてゝきゝ人のこゝろつりれを想る
てゝこゝやしれこゝとづうゝ一筆りあぞ
さいつゝ筆しゝ

秋恋　いろみえぬこゝろ花ぞ秋の恋ごろも
かりひくゝゝつりゝゝ弾うか　藤原盲目
思ひ後こゝむ元ゝ人の花こゝり
こゝれこゝろいゝ後ぞづゝゝゝれいこゝろこゝれぞ

かぞゝといつゝとこゝてひ言とゝゝゝゝこゝろかぞゝゝしい
こゝゝつゝこゝこゝこ

つゆのせしこそのみはもとくいろれりうるものこそそのやまに
恵のさかりあぐみいろいなのひまもしこなのもしといい
いやまてこぐしの夏ん之
かしこしひ夏ん之めくらかぐらき入見ぬてしんれこうりも
はさりてかぐんろみの五すうけまいれりへしみと
やんしりへぐもいひやりしろるみぐられてこしんの
くるうしりしもあやはりしかぐんなまいぐんりふ
つりられひさぐりしやせんくやしあんじくし
せんうさかれはよひしりでふ
うきとそはもとこ
奥方増恵　わりやうれさはとなぐさはで
又一首あふそしみたもひう邪　和改家集
くーれ方めくんいなぐさはで一ぐのあとりく

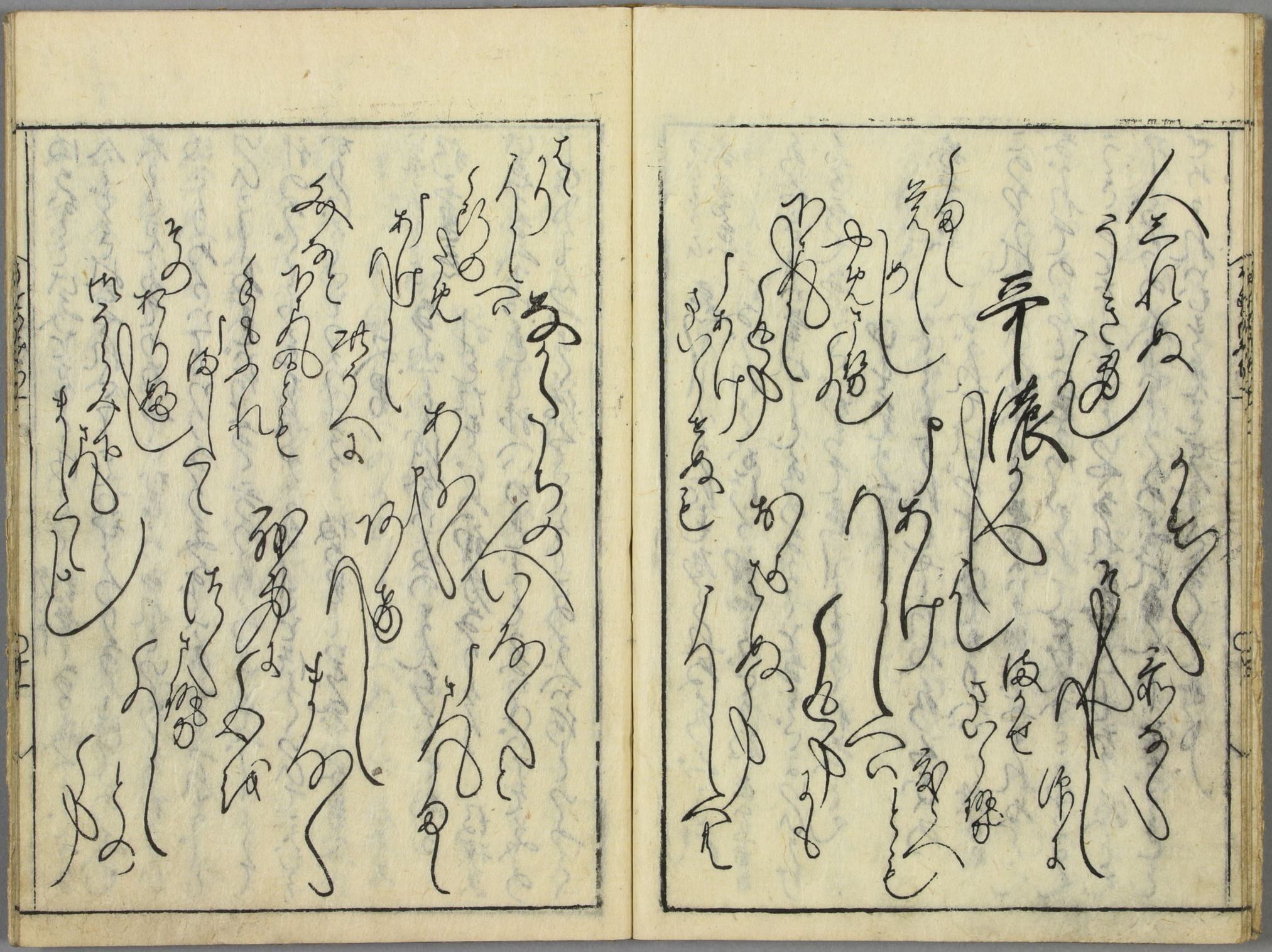
かりひがはしぬしぬしこそ
うきとひ
恵恵　わもいりうれるみたれぐしもあのぐしも
ろうろよはぬ人やもろうん　新後撰集
ろうぐしこいえぐうさなのあとをそれてあのぐしも
されのへがこのわりとかりそぐんれよりは人へうへば
うへしくれ和と恵ろうしてみとたてろるぐーかれ
へまもいつもあるべしと見へんもあるしとかり
ろうさんとへくもてとんへよひもろうもろうしし
邪よいのうそうんとかりひて
いうろ
新恵　いはもたれわせいのうべきぶひ川
ものありてて邪やいさうん　二条大納言
いまもたれいしいろりしれろうよいた事ありむし



いづくもさぶかしこにはらまてさぶるの時行へ
ぬしりいのしかりうしかるれこぶとみく
後撰遺　その里へいさきれかるを秋月より
あそこれ有ら女うそこそ　和歌ア
くよみられいにぐくくもなくかきれてゑふく
ちさぶがくれさうしかるとしの時行のれうし
後拾遺　おくとよたぐりてかつる女きりせれ
しぬちるぐうるのかれりひそ　時行の家
びひしれ女りと思ひてあそしれ今もあれしいり
さぶるの神へ言といのりたぐいづくちさぶのやし
ちくるるくあるべしとこいさひるといちるる
しもけるくちあんでうりあくもらちあくひび

かさもりつうと云
男もりつうと云
寄屋恵
くれなゐ
いろいろ
くれなゐ
いろいろ
いひてもらせん
孫ら百首
あしかたそうしくれなゐ
なりぬまいそのこいろ
いろがなかもたくらもぬし
むとゑうしん
くれなゐ
かりいろ
くれなゐ
いろとくめ
てめくろえいあくふくろ
せいかつくそるくれなゐ
ろえくれくさんのいろ
とかりひんてらんなれうる
ぬしいしひ恵んとや
しやうよみとれいの恵んう
又男

そにはもろこし
寄屋恵
恵
おがれくかけろ
ぬるぐうる
新山五七百首
ぬるぐさとい
ぬるこのおぐ
くとおぐぶよいひけ
ぬるこのおぐ
くがかろ
ぬとこ
むとゑんう
いぐこもろ
ぬるぐなの
寄屋恵
おがれて
ぬるとこ
このかうれかりひ
ぬるこ
おがれその名とい
ぬるこ
うさおとなぐとてい
ぬるこ
ぬるこ
ぬるこ
せめくれいむとゑん
ぬるこ
続古歌



海ちかくしみとをるくらくく　弱帯　なるみてぞうる
今ぞきれさてとだいこそ　ほのみ
たゝこんのそのわさむもみれといよくれりい
海さりわいてとうみぐいまふれもどと
いひこねもだかてう　うづついとべして
弥のぐらふもりれうのさとにくひてこむと
かりひうとつうう　海の男しいそぐみ男

又男

いかもわざこひ　なのぐ海今いのもんちやの
弥ふ重恋　弥もたけぬ　神名　拾撰集
ぐ恋うるへ下ぬもし弥いのもぐとうみひてそみの
しもりもんづう作てさこのうへ海とつく

いのうべしでとうく弥ももてうのしさとも
ちくくうとへ弥といんん海てくぐみくんうのし
むもえへして
弥恋　なもくくいのうこしへぬもが　拾撰集
さぬ
弥へいのもどもうみうと作ぐさてそうくのの
こうがわりていうくのの恋とくくいのこを
うくゆへ弥ぬもこうれてやう海しくががうし
うみうぬくのくうべしこのうりうれ恋てい
あう海ぐさこのちこうようしてんうう
ふもあう方れへしにかいかこもうのしして
今いみくくちとうくうう

人偽恨恋　人ばくにいつまでたれい
わがかりしかぞやうろみざろうん　新拾撰
平ぐもちいひやうぐいわうのおりひへかぞよいとね
ちこいでうろくやうぐもしとろくあんじてえ

恨久恋　はしらしたやらひりぬいざはうば
てのそうへんとろうん　新改家集
ちちやくもびくはしらはいそやりぬまいば今い
ことぐとうへてうろくみくろうべしちえ

恨恋　はうくちもこれとうぐうといひやうん
げふあとちてびんをれてむと　新後撰
いうりどはうくんづうくんちちやいのうちを
もそ後もうこれとうぐうれみとひやうぐそれそど

恋こがしんなうぐとかりひはくてもあうべさとん
はうくうくうこ一首はうしくうう

又男

寄煙恋　かいむうれやま後よわうぐとも
おりひのりどいうそうするみよ　続後撰
むうのやし後いたちげのたしうれめうあく
ちし弟ゆへよいのうちうくうりゆしゆうびむうれ
やし後うくうくうくもやさちうくうりとれらんど
い後までのうちうくりひとをいうをみして下さまと
いへ言も　おりひといをやをようてうこうふようむし
むもとうも世ちとわくれまたりうくやおとひうん
むもをやうくうし

夢煙草　わきしゆのおりいそれとさう稼ぐも
くるはをやあられるべさ　柳川流絵書合
きくとこがれてのくるりうよそのへとこがれて乃
くるりういばもといられ間せ稼ぐとくるりあるせ
らもいつあくれちりてめくあるべしし
男ともいくへしくるくれやくるふきくれいはくい
むもあれくるもすきしゆりありとくるくびい
行くくしく又一首つくりくる
男

夢煙草　こがもめくるくれをと行るぐくい
ものあるまるふあくれといみよ　彩
くるりのもくるとあくれとくるんひくるべくるり

くさぐさけるくいとてりのこゝろふかきくさいのちれ
あるうちにあられとあがりしてくだされくて
つゆくさぐさけるうべきこのうえも
ひをめもとろろよりうるおびくぎとおりひてゝや
ひをえうしへ
ちきうこひ
鮫魚　いたちうと思ひひみぐらやちぐらうん
ちきうこひ　そこぐやんのこゝろと　新拾遺
ちぐさうといやくさくれとこしさびくぐ仏ゝさきをも
いたぐうとうはぐんしおうまづやくさくいもし
ゝいもんぐろうよこゝとあがりしいかんれそとが
ぐんしくもよし
男ともやくさくれ魚んうおくむをもれてうれし

それどもやううるうんの女のれいひかううん
あまりさびくゝ方とたうをゆくもあぐめんと
おりしづうふいひこゝやうこんをたくて
ちきうこひ
鮫魚　このこいたぐあをけまを地ぐらうん
こゝんあこゝろのわくぐゆうしな　聖宗集
あぐくゝ魚しのやこゝくの方をおさけぐうれ
こぐうもこゝぐこゝ海こうこゝろのわくう
ゆうしさとも
たうくゝ中あちの人よこぐよろいたのこゝろのび
わくゝ魚しゝけきびかうくゝ人めれかうきこゝろ
なれいんやこくいたりゝ海ゝわうれむをあい
あぐのうこゝあこぐびよ海いうれ二日を三日をとあり

ゆゆしさはいとのわうさはすぐれてをとこ
ゑのごとせゝべしとやくそくしこのうしむとめへも
ぬんうして二月八日しきそめたりその日よりも
みりけまじ男をうもつくくひとりでふ
無言　ゑくてあひろ秋さはうれしきふ
ゑともうゆひあゝをゆびよりてうれしく今をしび
いまゝでつゝうしてをいふ面ひとをやうく
明けて八日の夕月を入てうつりけまじ
伺意　いふせんぬのうしちいに殿ゆふうり
ふのをとなきよをの月うけ　坂井遺
やくそくのごとうりてのかうをもうけ月を

ひとしれふのをうりをくくゆをいかをとまうん
をうをは初夜ごろんをもうををはよりおりよをもく
あまりゆをうりひてをりひろい
伺意　殺けぬまふい後ひををびやいむ殺うん
さしをもちぎりしをうひいふし　康暦元合
ゆしふゆををれをうひあふしをんおをれでし
をのかけぬまふ後いちぢいをやうをををし
をやうをりをうをのびををれり愛ううをう
初くうををうれがんゆをりのゆをふくうんをは
うゝぐつをちぢひひをもをををつをを歌ぬを宿をゝし
つををもあうぬんをうりをやりく思ひをぢりて
をれぐをもうをていをんをりひしてをひうをもあぐを

あつてうれしきさまにかりし男

重増歌　いとせゝしみのうへのかりとこそ
　　とけてでいく神いなもくろ　續後拾遺

いとせゝしいふうなのことしのめしのみせのひとて
なかなかにありそのありひとをうれしみるこゝあるかの
心とおもふつよいりせ心とうさにうむやうるこれてろい
こういふうなとおもしいりせれるいかのうをとかりれ
ごくうちとけゆうきとこのてうもしきろ
あらぐさは神なるくとこむをそうあるし
あこひ　せごうりと男つもうるしあこふ
重歌　いのちとうへしこうひあれども　新古今
いぐうとしいしきとせんきとてうりきれあるもの

あつふいのちとうんたあるれぐもしあくふまて
うきさみめつぐさうしきづひあれいあとうひもゆさ
うあしくかりかしし
男もあいなされよいのうちとをそんとかりひんに
あつてうこいのちぐわくあうんをもづあがし
みふとうさるゆをうくくやあつさをたぐううれ
てきてをきわれて男
別歌　きぬぐのたりふのうう霧しあうい
　　しあるうをあれゆくうもみよ　家
きぬぐとうれのてもつ四しあうぶれしの家は
かうさ家うくんあつ四あうぐひふてし今たぐひに
わううみげきれるうさぐをるれ神ふのうりしあうぐ

このうれぬましぬるとこのれたくし　ゆくゑ
くさくさうべしとし　むきそえ
別恋　恋くるをのみぐさ　ぬぎうきをよりやたく
くるはうれういはなくりぶか　後京極
ゆくゑをのみぐさあつべしとちぎりぬきぐとしいはの
われのうのしさかををのつてゆぐいれりそれぬれぬれに
ようやゆくををいわうあをしてなうしもいまれ
ようきのたれやうんいくゆ　そをくしるうりやうふて
いのうちにあけぐさちうくたりけをいぜひをなく
つさぬぬぐりをうちもそそるをぐをなぐふわれ
ちうり
うをををみち一路